

令和2年度 四万十市 研究推進校指定事業 実施計画書

1 指定校の概要（4月7日現在）

学校名	四万十市立下田中学校	校長名	山崎利彦	児童数 生徒数	20 人
-----	------------	-----	------	------------	------

2 研究主題（※学校で掲げる「研究主題」を記載）

主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり
～表現力の育成を中心として～

3 研究主題設定の理由

本校の生徒は、小学校から流動性の少ない集団の中で育ってきていることに加え、他の中学校に入学する生徒も多く、限られた集団の中で学校生活を送っている。そのため、固定された小集団ゆえに「周りから受ける学習への刺激が少ないこと」や「人間関係が固定化していること」が学習環境上の課題となっている。また生徒の学習実態も学習意欲、学習に対する主体性や対話的な学習活動への積極性の乏しさが見られ、多くの生徒に共通する課題としてとらえている。

各種の学力調査の結果からは、多くの生徒に思考力・判断力・表現力の弱さが見られている。特に表現力の弱さに関しては、発言や発表、根拠を示した説明等が弱いことを授業実践の中で各教員がとらえている。それに付け加え、これまでの学習の基礎・基本が十分に身についておらず、個別支援が必要な生徒も各学年に数名いる実態がある。

このような課題や実態から、本年度は基礎・基本の定着を図る取組を継続して行いながら、特に表現力の育成を重点的に取組むこととしたい。学習指導要領の改訂の中で求められる主体的・対話的で深い学びの実現は、本校が抱える生徒の課題を克服しない限り実現できないと考えるからである。また、自分の考えや意見等をきちんと表現できる力を持った生徒を育成したいという、教職員の願いも込められている。そのためにも、各授業実践の中で意識的な取組を継続し、研究主題に迫りたい。

4 研究の内容

①研究方法

各教科の授業改善

1 重点項目

- (1) 下田の学びのスタイルの充実
- (2) 効果的な単元目標の工夫
- (3) (単元)目標に応じた振り返り方法の工夫

2 具体的な取組

- (1) 場面・内容に応じた学習形態の工夫
- (2) ノート指導の工夫
- (3) 昨年度までのチーム会の取組(学習指導案検討、模擬授業、研究授業、授業評価アンケート、事後検討会、実践レポート作成等)による教員相互で学び合う授業研究。

総合的な学習の時間

1 前年度末

- (1) 総合的な学習の時間(以下「総合学習」)について
- (2) 課題の洗い出し・学指にて目標・趣旨の確認
- (3) 課題解決を図る年間計画の協議

2 本年度

- (1) 年度当初に年間計画の作成・内容確認
- (2) 学期末に課題の協議及び計画の見直し
- (3) 本校及び小中合同の校内研の計画的実施
- (4) 先進校への視察及び研究発表会への参加
- (5) 2学期末に学校評価及び総合学習のアンケート実施

②研究の実施体制

総合
学年

【教科間連携による
授業力向上進委員会】
・管理職
・研究主任 ・教務主任

学力
向上

チームA

英語担当/国語担当/音楽担当/養護教諭

チームB

社会担当/英語担当/数学担当理科担当/保体担当

③普及の取組

- オール四万十研究発表会での取組発表
- HP上での取組普及
- 学校便り等に研究に係る取組掲載

5 年間事業計画

学期	取組の内容	
	研究推進に係わる取組の具体（校内研修計画や取組内容を詳細に記載）	備考（講師等）
1 学期	年度当初の校内研にて研究の方向性の確認 〃 総合的な学習の時間の趣旨・目的の再確認 〃 学年部会にて各学年の総合的な学習の時間の計画見直し 各学年の取組実施(5月中旬開始) 生徒・教員用アンケート実施 学期末の校内研にて成果と課題の把握・分析 夏休み中の校内研にて2学期の取組の検討	
2 学期	各学年の取組実施 学習発表会での総合的な学習の時間の発表方法等を検討 先進地(先進校)視察 学校評価アンケート実施 生徒・教員用アンケート実施 学期末の校内研にて成果と課題の把握・分析 オール四万十に向けて取組のまとめ オール四万十での発表PPの確認	
3 学期	オール四万十で取組発表 年度末の校内研にて成果と課題の協議 来年度の計画立案	

6 到達目標及び取組目標

- 学校評価(生徒用)の総合的な学習の時間に係る質問項目において肯定的評価90%以上
- 総合的な学習の時間のアンケート(生徒用)において全項目90%以上の肯定的評価
- 高知県版学力定着状況調査における表現力の問題の正答率60%以上
- 高知県学力定着状況調査の正答率が県平均5P以上上回る